

# 小學校と幼稚園との

## 關係

大元茂一郎

私は幼稚園のことはしりませんが幼稚園のことを小學校に加味してやつて居るのでありますから其ことの御批評を頂きたいのであります。お話を致す前に教授法の變遷に就て申しませう。

教授法は學校教育の十中の八九を有して居て甚だ大切なものであらうと思ひます。

そこで昔よりこの方法に就ては多大の研究を積んだものであります。まづ大体に教授法の變遷を別けて見ると三つの時代がある。

第一暗誦時代——これは教師の通り繰り返し眞似をする方法で其結果は生きた蓄音機が出来上つて役に立つ人間は出来ないのであります。

第二直觀教授時代——充分に理解させなければならぬといふ所からそれには吾人の感覺機關に訴へてよく腦の智識にするといふ方法である。

繪などを多く見せ音ならば直接に其音を出して聞かせるのである。然しそれは神戸に行く鐵道線の如く何事にもパノラマ的で効果がなかつた。

第三筋肉運動主義——これは目下教授界に起りつゝある練習主義をいふのである。感覺機關に訴へるばかりでなく機關を運動させる結果完全なる智識を得させるといふ方法である。そこで實際にあてはめて見ると眞に智識を得る媒介となるかといふに例へば物を見るにもたい見るとは目を運動させて見ればよく見ゆる様なものである。又物をきくにも耳を傾け動かして聞くやうにする方がよく聞える。觸覺でも唯さわるよりも指先を運動させれば硬軟粗密がわかるのである。即ち筋肉を運動させた結果其性質を精確に知ることが出来るのである。

以上は身体的の方面から見たのであるが心の方面より見ても筋肉運動主義は大切である。今記憶に就て言つて見れば記憶するのに視覺式の人と聽覺式の人と運動式の人とある、此三つを比較して見るのに聽覺式よりも、視覺式の方が明か

に記憶が出来視覚よりも運動式の方が深く記憶の出来るものである少年時代に竹馬に乗つた場所や様子はわすれても乗り方は記憶して居る繪なども唯手本を見るだけでなく空中にでも自ら書き見て見る方がよく記憶が出来るのであるこれを見て運動式がいかに記憶をつよめて居るかがわかる今後の教授は此様にして身体的表出を澤山にやらせなければならぬと思ふ此點から見ると幼稚園の仕事は主として筋肉運動主義によることが多いのであるから幼稚園で研究したことは小学校に提供して参考とならしめなければならぬ

それで私が此主義によりて研究したことの一二を申上げて見ようと思ふ

一、砂箱の研究

深さ五寸ほど大さ隨意  
小学校教科書中の草木の競走を教授するに就て普通は圖を見せはなすにといまふけれども砂箱を用ひてまづ山を作らせ他に旗を作りそれに草木の名を書きつけ各自に持たせて草木競走を

させ高山に發生することの出来ない草木から順次に其位置に止め行き最後に苔が高山に登り勝を占むる様になる

二見が浦を作り舟を作りてそれを置かせ其置さ方に就て風と帆との關係を知らせることが出来たのであるかうして更に新しく物を作り出すといふことは注意を深くし智識を精確に細く筋肉運動をたすける得點がある幼稚園でも此方法は出来はしないかと思ふ桃太郎の話をしたならば其形を部屋の際にでも箱を置いて作らせてもよろしいと思ふ、英國では生徒も教師も砂箱をもつて字をかい居るのを展覽會の寫真で先日見たのである、

二、二分間体操

小学校の内では遊嬉と体操は智と直接には關係がないが間接には關係ありて大なる筋肉の運動をする効があるから今更でよりも一層に必要であるかういふ様な効あるものであるから幼稚園でも大きい組には規律的運動に馴れさせて小学校と幼稚園とを關聯させる方便として二分間体操

をさせたらよからうかと思ふればかりでなく物にあらたころにこれを行つたならば姿勢を正しく心氣を一轉して新しき勢力を得させることが出来るから行つたらよからう

三、教育上に鏡を用ゐること

發音の矯正に鏡に向はせて口の形舌のつかひ方をなほすことは効果あるものであるこれは先年博覽會に於て偶然に發見して用ゐたのである鏡を用ゐるのはこれのみでなく平面圖を理解させるにも効果があつた生徒に地圖を示しても平面を理解させるのが困難でありしが或時物の置かれし處を鏡を用ゐて上からうつして見せた所がよく平面圖を理解することが出来たこれも幼稚園にも應用したならばどうであらうかと思ふ

◎臺所の疫病神

二宮翁は、台所や流しの窓を反古紙で張ることを大變に嫌はれた、反古で張ると只さへ暗い台所は益々陰氣になりて貧乏神の宿に持つて來いと云ふ様になる、それだから奥座敷でも何處でも反古で張つて差支ないが、流し元の窓だけは白紙で張ると常に云はれたさうである。

兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

次には孤立的兒童と申しまして他の子供とはると云ふことの性質を缺いて居る、さう云ふ特別な個性を有つた者があります。それはどう云ふやうな子供かと言ひますと、例へば幼稚園に行きましても他の子供とは少しも遊ばない。自分獨りだけ廊の方に離れて仕舞ふ。それは唯だ他の子供に近付かない許りては無い、保母の側にも中々近付かない。口は利かないで黙つて居ると云ふやうな風の性質の子供で、之を孤立的兒童と言ひまして、詰り子供としての社交的の性質を全く缺いて居る子供を言ふのです。是れはどう云ふやうな場合に多く起つて來るかと言ひますと、或場合には疑惡的の性質を餘程餘計に持つて居るやうな子供が斯う云ふやうな有様を呈します。其疑惡的の性質がどうして養はれたかと思ふと、例へば多くは違つた親の手に育つてさうして割合に残酷な扱ひを受けたと云ふやうな所からして、他の人に對する信用と云ふ精神を少しも持つて居らぬやうになる。入を見ればもう直ぐに自分に對して苦痛を興へる者ではないかと疑やうな話、さう云ふやうな場合に疑の心と云ふものが多くなつて來まして、他の人どうして近付くことをば厭やがると云ふ風になる。さう云ふやうな子供には屢々外部から見て幾らか痴鈍ではないかと思はれる容子の子供があります。例へば指を咬へて居るとか或は唯だ他